

# 3

## 評価もしくみとして体制を整え、標準化する

学習の成果をどのような観点で評価するのか、まだ検討中の高校もあるのではないだろうか。ここでは各校の教育目標、生徒の状況に合わせ、独自の評価規準を設定し、しくみとして運営している例を紹介する。

誰にでもわかりやすい評価をしたい！

長崎・上五島高校

FORMATION CASE

6

### 数値による 学習評価規準を作り上げる

関連記事 / 18P・28P・35P・53P

#### ポイント

社会が認める評価を目指し、指導要録とは別に、指標を明らかにした「評価表」を作る。評価表に基づいて、4段階で達成度評価を行う。生徒の自己評価と生徒間の相互評価、教員の評価を組合せ、最終評価を出す。

#### 効果・成果

評価を数値で示すことにより、生徒に到達度を明確に示すことができる。生徒の就職試験、大学の推薦入試やAO入試に活かせる。評価内容分析により、生徒の今後の改善ポイントが明確になる。

誰にでもわかる評価規準をと、独自の評価法を考案

社会が認めなければ真の教育活動にはなり得ない。そのためには誰にでもわかる評価が必要との考えのもと、指導要録とは別に独自の評価法を考案。どんな力を身につけさせたいのかに基づいて評価項目を何度も改善し、各学年の評価表を完成させた。

評価は中間発表と最終発表の2回到達度評価で次の課題とする

同校の評価は生徒にとつての「ものさし」的役割を果たすもの。中間発表で目標値に達しなければ最終発表への課題に、1年生修了時に未達成なら、2年生での課題となる。評価規準により生徒が自身の到達度を理解しやすくなり、自発的な学習姿勢へつながっている。

#### 評価の観点と評価規準

第1・2学年

第3学年

学年テーマ：上高と上五島を魅力的にしよう！		学年テーマ：社会と自分～21世紀の自分の理想像を求めて～	
評価規準		評価規準	
企画力	自分で課題を発見できる。課題の設定が適切にできる。課題解決のための活動計画を見直しを持って企画することができる。調査活動における質問事項を的確に設定できる。	情報収集力	論題に関する情報や資料の収集ができる。情報の中から有効な情報を選択し分析できる。情報から有効なメリットやデメリットを見つけることができる。テーマに関する理解を深めるための基礎的な情報や資料収集ができる。
情報収集力	調査活動のためのアポイントや質問がきちんできるとできる。収集した情報を整理し分析できる。	発表能力	落ち着いた態度で効果的にわかりやすく話すことができる。自分の役割における時間を有効に利用したディベートができる。引用などで資料を有効に利用したディベートができる。
発表能力	問題点などを認識し、さらに絞り込んだ情報収集ができる。収集した情報から問題解決に向けて自分の考えをまとめることができる。声の大きさ、スピードなどに注意して話すことができる。落ち着いた態度で効果的にわかりやすく話すことができる。筋道の通った話し方ができる。	判断力	相手の論旨を把握し自分の論旨との違いを明確に区別できる。チームワークよくディベートができる。議論の展開を把握できる。肯定派と否定派の意見の違いを区別できる。自分の意見に左右されずに公平に審判ができる。
情報機器操作力	パソコンで情報収集ができる。ワープロ用のソフトを使い文書の作成ができる。複数のソフトを使いこなすことができる。パソコンでプレゼンテーションができる。	文章表現力	原稿用紙の使い方を理解し正しく使うことができる。小論文の内容を筋道を立てて構成することができる。自分の意見を自分の言葉で表現できる。
社会性	積極的に関わりあうことができる。協調性を持って取り組むことができる。責任感を持って取り組むことができる。		文章表現力 論旨が一貫した文章を書ける。文章を読んで論旨を理解することができる。積極的に取り組むことができる。協調性を持って取り組むことができる。責任感を持って取り組むことができる。

評価：各学年ともそれぞれの評価規準を次の4段階に区分し、到達度を見る。  
4：よくできる 3：かなりできる  
2：すこしできる 1：できない

評価の時期：1年生、2年生はそれぞれ10月に中間評価を行い、学年末に最終評価を行う。各時点で評価のよくなった項目次のステップで努力するよう指導する。